

2025年9月期第2四半期 決算説明会

株式会社メディネット
(証券コード：2370)

2025年5月29日（木）

1 業績

2 細胞加工業

3 再生医療等製品事業

売上高

404_{百万円}

前年同期

399_{百万円}

前年同期比

101.3%

研究開発費

234_{百万円}

前年同期

223_{百万円}

前年同期比

104.8%

営業損失

△755_{百万円}

前年同期

△658_{百万円}

(単位：百万円)	2024年9月期 2Q 累計実績(A)	2025年9月期 2Q 累計実績(B)	対前年同期	
			増減額(B)-(A)	比率
売上高	399	404	5	101.3
営業損失 (△)	△658	△ 755	△ 97	-
経常損失 (△)	△632	△ 710	△ 78	-
当期純損失 (△)	△634	△ 705	△ 71	-

■ 売上高

前年同期に発生した技術移転一時金が発生しなかった一方、資生堂から技術提供を受けた製造受託に伴う売上のほか、バリューチェーン事業の売上が増加（前年同期比185.6%）し、404百万円（前年同期比101.3%）

■ 営業損失

原価率の上昇に加え、研究開発費・販売費・一般管理費の増加により、販売費及び一般管理費が814百万円（前年同期比110.5%）となった結果、755百万円（前年同期は658百万円）

■ 経常損失

投資事業組合運用益30百万円、受取利息 6 百万円、貸倒引当金戻入額 3 百万円等により、710百万円（前年同期は632百万円）

業績 売上総利益・販売管理費

(単位：百万円)	2024年9月期 2Q 累計実績(A)	2025年9月期 2Q 累計実績(B)	対前年同期	
			増減額(B)-(A)	比率
売上高	399	404	5	101.3
売上総利益	78	58	△19	75.2
売上総利益率%	19.6	14.6	-	-
販売管理費	737	814	77	110.5
研究開発費	223	234	11	104.8
販売費	91	115	24	126.6
一般管理費	422	465	42	110.1

■ 売上総利益

増収の一方、原材料費の高騰・労務費の増加等やCDMO事業での新規案件獲得に伴う受託体制の整備に係る費用の先行等により、58百万円（前年同期比75.2%）

■ 研究開発費

再生医療等製品の開発に加え、脂肪由来間葉系幹細胞（ASC）の受託開始に向けたセットアップ費用等の増加により、234百万円（前年同期比104.8%）

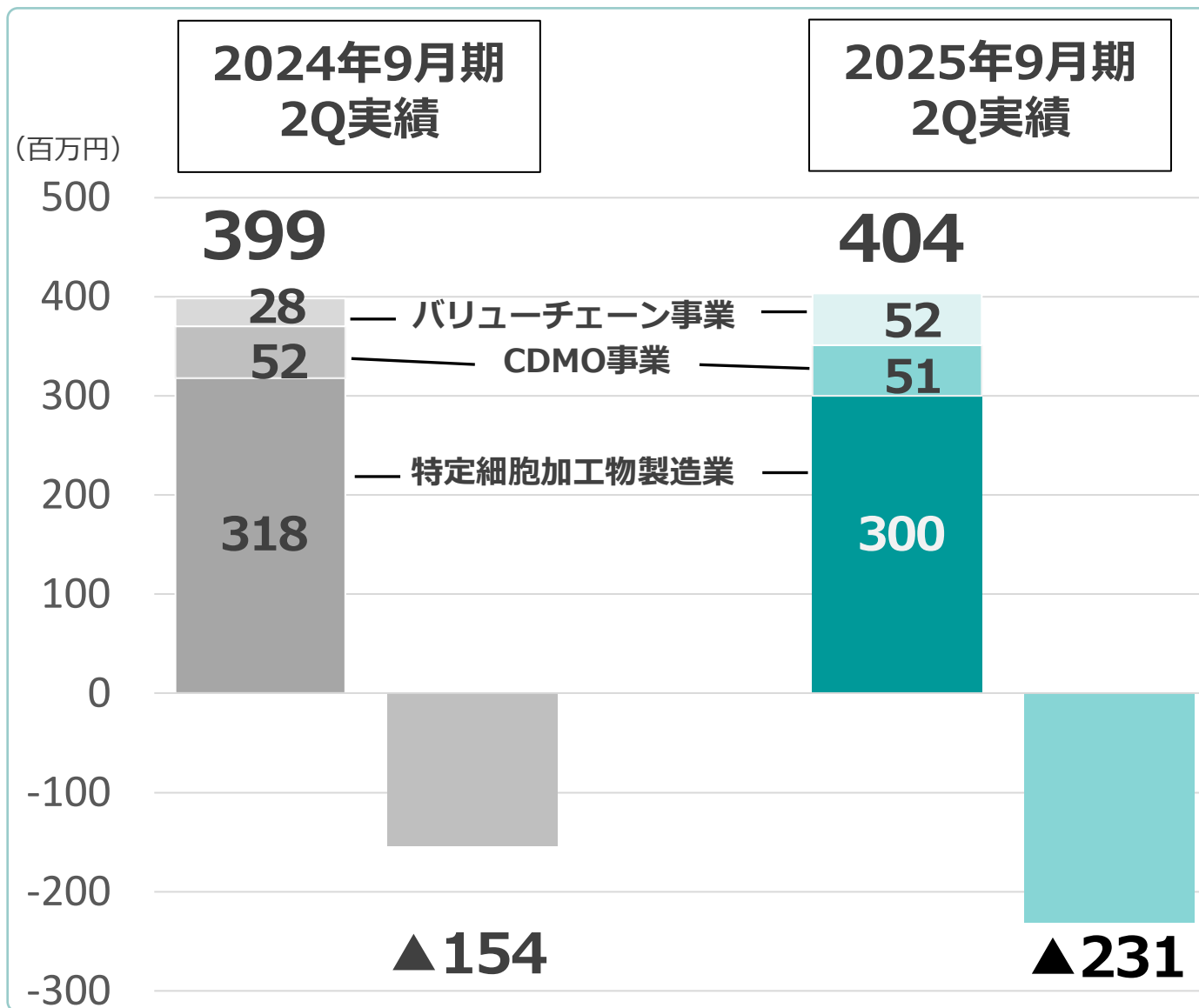
■ 販売費

製造受託促進に係るプロモーション活動の強化等により、115百万円（前年同期比126.6%）

■ 一般管理費

細胞加工に係る体制強化等により、465百万円（前年同期比110.1%）

業績：細胞加工業 売上高・セグメント損失



■売上高

● 特定細胞加工物製造業

免疫細胞：前年同期と同水準で推移

S-DSC®：前年同期に計上した技術移転一時金が発生しなかった一方、製造受託開始に伴う売上を計上

● CDMO事業

前年同期と同水準で推移

● バリューチェーン事業

Medigen社からのロイヤリティ収入、医療機器販売等を計上により増加

■セグメント損失

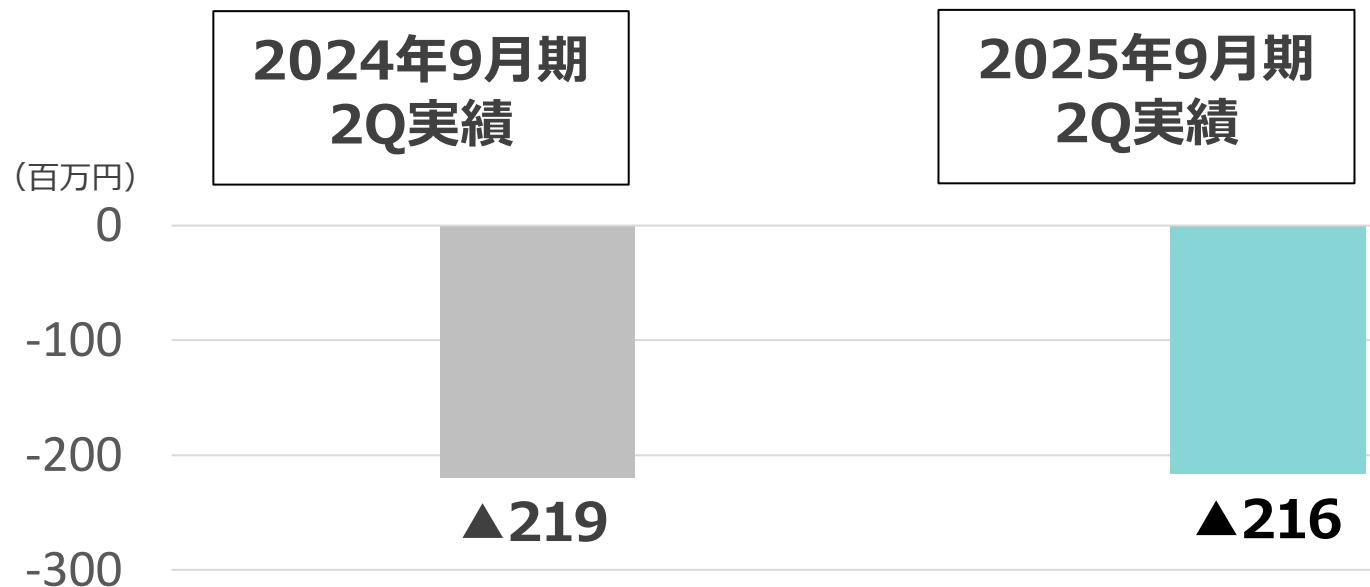
- CDMO事業の新規案件の受託に伴う体制整備
- 脂肪由来間葉系幹細胞（ASC）の受託開始に向けたセットアップ
- 製造受託促進に係るプロモーション活動の強化等により、損失が拡大

■売上高

現時点で当社が製造販売承認を取得した再生医療等製品等はなく、少額のライセンス収入のみ

■セグメント損失

再生医療等製品の開発等に取り組んでおり、膝軟骨損傷治療に用いる自家細胞培養軟骨（MDNT-01）の開発をはじめ、新規の開発候補品の早期獲得に向けた活動、各種研究開発案件の取り組みにより、216百万円（前年同期は219百万円）



貸借対照表の概要

(単位：百万円)	2024年9月期 会計期間(A) (2024年9月30日)	2025年9月期 会計期間(B) (2025年3月31日)	増減額 (B)-(A)
流動資産	5,013	4,796	△ 216
現金及び預金	4,651	3,351	△ 1,299
その他	361	1,445	1,083
固定資産	686	640	△ 46
有形固定資産	422	391	△ 30
無形固定資産	100	93	△ 7
投資その他の資産	163	155	△ 8
資産合計	5,700	5,437	△ 262
流動負債	268	772	503
固定負債	240	231	△ 8
負債合計	509	1,004	495
資本金	6,486	5,102	△ 1,383
資本剰余金	1,327	3	△ 1,323
利益剰余金	△ 2,714	△ 705	2,009
純資産合計	5,190	4,432	△ 757
負債純資産合計	5,700	5,437	△ 262

■ 流動資産：現金及び預金

3,351百万円（前年末は4,651百万円）

■ 流動資産：その他

- ・ 有価証券 500百万円を計上
- ・ 仮払金 500百万円を計上

■ 流動負債

- ・ 未払金500百万円を計上
合同金銭信託の購入の過程で仮払金/未払金が一時的に発生

■ 資本金/資本剰余金/利益剰余金

- ・ 資本金・資本剰余金が減少
- ・ 利益剰余金が増加
第29回定時株主総会決議に基づき増減

自己資本比率 81.5%（前年末は91.1%）

1

業績

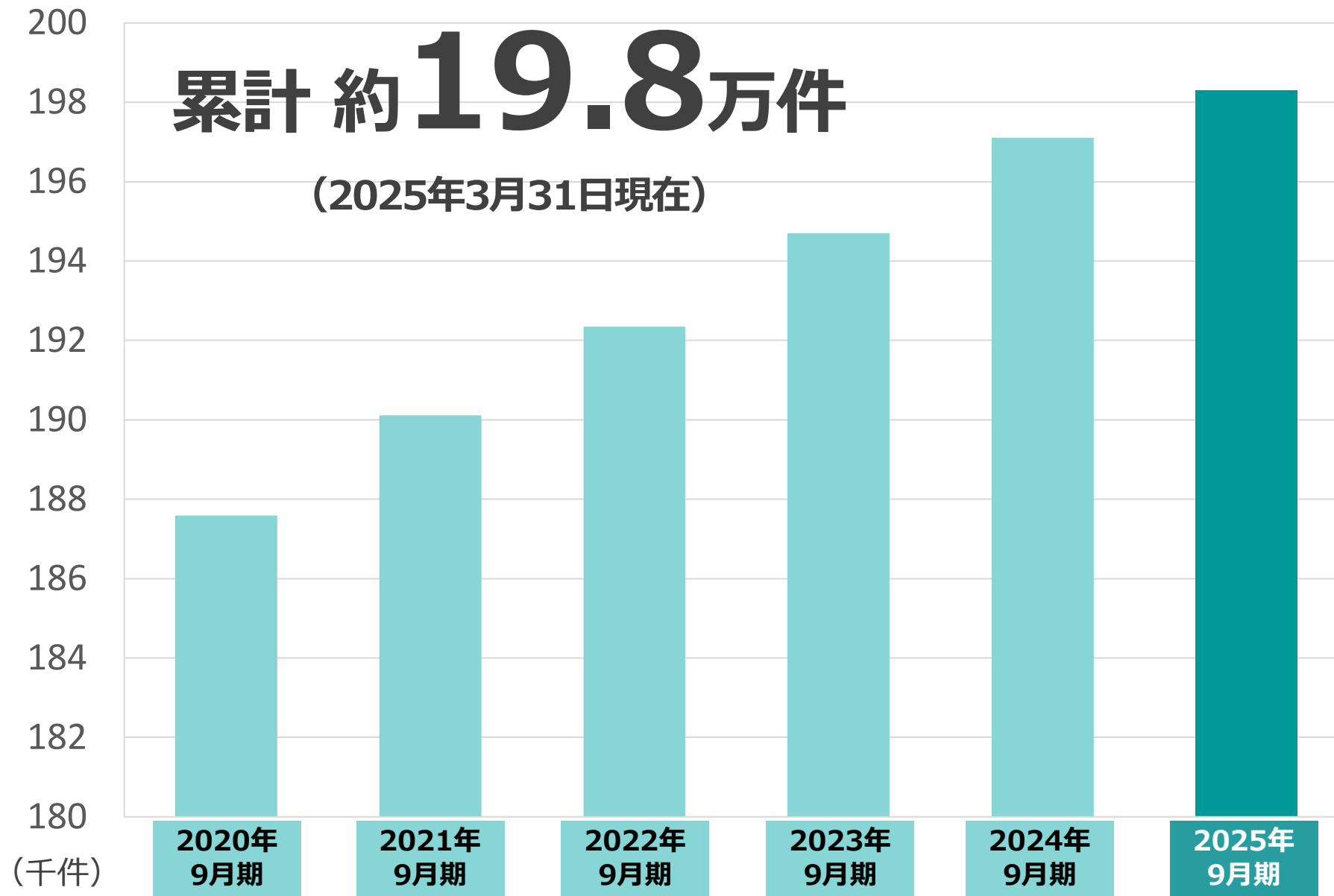
2

細胞加工業

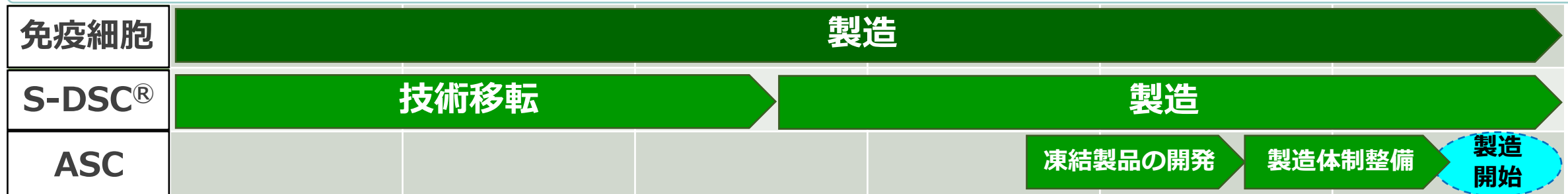
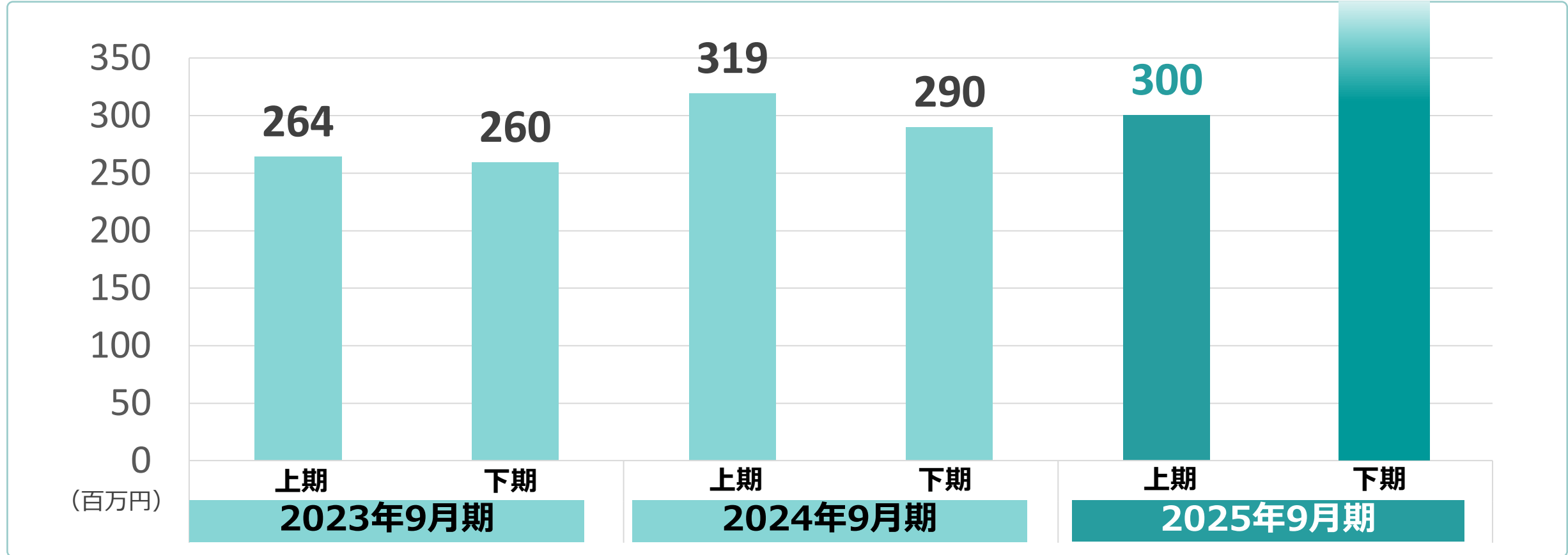
3

再生医療等製品事業

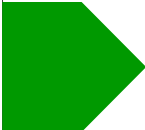
特定細胞加工物（免疫細胞）の製造件数（累計）



特定細胞加工物製造業 半期毎売上高推移



特定細胞加工物製造業の進捗及び今後の取り組み

細胞腫	ステージ			2025 年9月期上期	今後の取り組み
	技術 確立	製造 準備	製造 受託		
免疫細胞 (がん)				新規契約医療機関の獲得	エビデンス強化に向けた臨床研究の推進（ICI不応例試験等）
資生堂からの技術提供 S-DSC® (毛髪)				大学病院を含む医療機関 3 施設からの製造受託を開始	製造受託可能件数の拡大準備
ASC (肝疾患)				凍結製品の開発完了	下期の受託開始
セルアクシア共同開発 三次元骨様組織 (歯科領域)				ダイレクトコンバージョン法で作製した骨芽細胞を用い、既存の骨補填剤に置き換わる画期的な骨造成技術を確立	セルアクシアと協議し、アカデミアでの臨床研究を早期開始予定

宣言の目的と背景

再生医療等の安全性の確保等に関する法律（以下、「安確法」）の下で提供される科学的検証を経ていない再生医療の拡散が国際的に懸念される中、日本再生医療学会は、科学的に正当な治療と、十分な科学的検証を経ていない治療を明確に区別する責任があると認識。

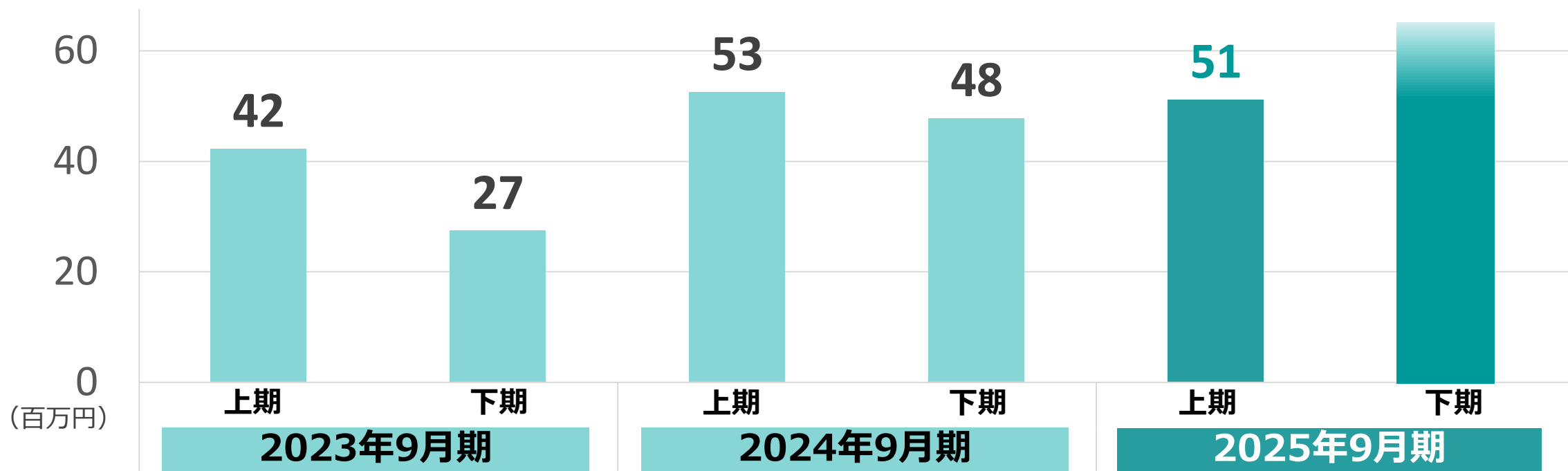
安確法下で提供される再生医療を2つのカテゴリーに分類

検証型診療	薬機法に基づく製造販売承認を取得していない加工細胞や核酸等を用いる治療であり、独立した第三者レジストリに臨床データを蓄積し、治療前後に検証型研究を実施するもの
無検証診療	上記の「検証型診療」の条件を満たさない形で、薬機法に基づく製造販売承認を取得していない加工細胞や核酸等を用いる治療

今後の取り組み

- 患者、一般市民、臨床医との積極的な対話を促進し、承認済み治療および未承認再生医療の正しい認識と理解の向上を図る。
- 透明性の確保、患者保護、科学的整合性を担保するための実践的な指針の策定に取り組む。

CDMO事業 半期毎売上高推移



ヤンセン
ファーマ

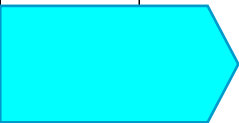
技術移転

治験製造

【新規案件】
大学発
ベンチャー

技術移転

CDMO事業の進捗及び今後の取り組み

細胞腫	ステージ			2025 年9月期上期	今後の取り組み
	契約 締結	技術 移転	製造 受託		
ヤンセンファーマ				治験製品の製造受託継続	市販製造の受託に向けた体制整備
【新規案件】 大学発ベンチャー				技術移転の契約締結・開始	技術移転の完了および治験製品の製造開始
AGC	細胞治療薬CDMO事業における戦略的パートナーシップ契約 培養技術者の人的協業を開始				



1

業績

2

細胞加工業

3

再生医療等製品事業

再生医療等製品事業：製品開発の進捗

開発品名等		開発ステージ				2025年9月期上期	今後の予定
		前臨床	P I	P II	P III		
MDNT-01 (NeoCart [®]) 膝軟骨損傷	米国				 	・ Ocugen社 米国第Ⅲ相試験準備中	・ Ocugen社 米国第Ⅲ相試験開始
	日本					・ 国内第Ⅱ / Ⅲ相試験デザインについてPMDA事前面談実施	・ 国内第Ⅱ / Ⅲ相試験デザインに関するPMDA対面助言を実施し、 米国治験開始準備が整い次第、 下期中に国内開発方針の決定

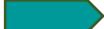
*1:米国第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ相試験（実施済み）

*2:米国Ocugen 生物学的製剤承認申請のため追加の米国第Ⅲ相試験（予定）

*3:国内第Ⅱ / Ⅲ相試験（予定）

再生医療等製品事業：研究開発の進捗

研究開発シーズ	開発ステージ		2025 年9月期上期	今後の予定
	基礎	臨床		
HSP-105特異的TCR-T細胞 (国立がん研究センターとの共同研究)			・ HSP-105特異的TCR-T細胞の非臨床POCデータの取得を目指しマウス薬効試験実施中	・ HSP-105特異的TCR-T細胞の実用化に向けた非臨床POCデータの取得
糖鎖修飾改変Tリンパ球 (2-DG添加培養技術)	 		・ 基盤技術として、CAR-T、TCR-Tへの応用のための基礎検討 ・ 瀬田クリニックにて、2-DGリンパ球による免疫細胞治療の提供開始	・ 基盤技術として、CAR-T、TCR-Tへの応用検討 ・ 技術導出の可能性検討
免疫細胞治療のエビデンス (混志会瀬田クリニック東京との共同研究)			・ 先制医療における免疫細胞治療の有用性を確立するために臨床研究を実施中 ・ 免疫チェックポイント阻害薬（ICI）不応例に対する免疫細胞治療に関する臨床研究実施中	・ 免疫細胞治療の更なるエビデンスデータの拡充
高感度抗体検出技術 MUSCAT-assay (岡山大学との共同研究)	 		・ ICIの効果予測/判定のための診断薬の可能性を確認するために追加データ収集・解析 ・ がんリスク検査への応用を検討中	・ ICI効果予測の診断薬としての可能性見極め ・ がんリスク検査としての実用化に向け診断薬会社との共同研究実施

矢印の  は薬機法下、 は安確法下

MDNT-01(NeoCart®) 膝軟骨損傷治療に用いる自家細胞培養軟骨

製品特性

- ・ 膝軟骨（硝子軟骨）近い状態まで培養するため長期の臨床効果が期待
- ・ 移植の際に、縫合する必要がなく、手術も容易

米国

- ・ 米国第Ⅲ相試験準備中
- ・ 米国における治験製品製造体制の準備が遅延

日本

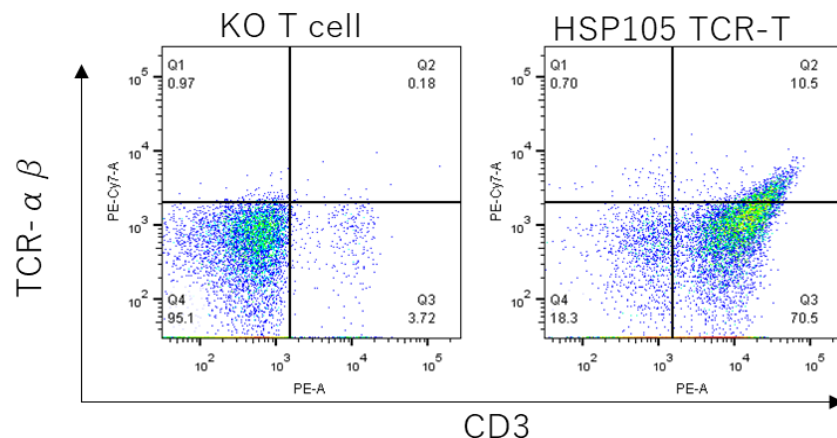
- ・ 国内第Ⅱ / Ⅲ相試験デザインについて、PMDA対面助言を実施予定
- ・ PMDA対面助言の結果を踏まえ、Ocugen社における米国治験開始準備が
整い次第、国内開発方針を決定予定（下期中）

HSP-105特異的TCR-T細胞（国立がん研究センターとの共同研究）

第22回日本免疫治療学会学術集会で成果を発表

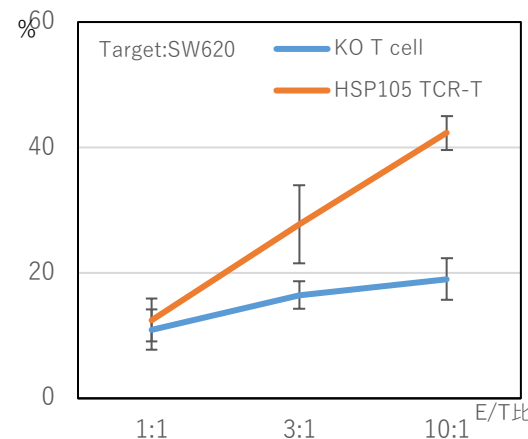
- 内在性TCR遺伝子をノックアウトしたヒトT細胞に、HSP-105特異的TCR遺伝子を導入し、HSP-105特異的TCR-T細胞の作製に成功（下図右）
- 作製したHSP-105特異的TCR-T細胞は、*in vitro*試験でHSP-105陽性細胞株に対して細胞傷害活性（下図左）、*in vivo* 皮内同時投与試験において腫瘍増殖抑制効果を示す（下図右）

作製したHSP 105 TCR-T細胞のTCRの発現

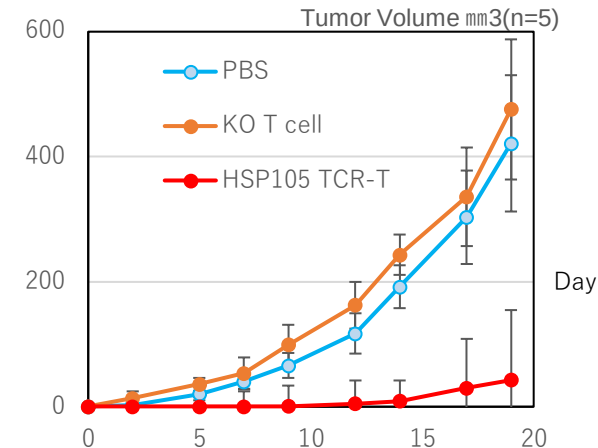


※HSP-105：大腸がん、食道がん、咽頭がん、膀胱がん、乳がん、メラノーマ等の様々な固形がんを高発現

*in vitro*細胞傷害活性



*in vivo*腫瘍抑制効果



HSP105特異的TCR-T細胞の固形癌に対する有効性を証明、製品化を目指す

免疫細胞治療のエビデンス (滉志会 瀬田クリニック東京との共同研究)

自費診療における免疫細胞治療のエビデンスの拡充に向けた検討

1. 先制医療※における免疫細胞治療の有用性

- 健常者におけるこれまでの臨床研究において、免疫細胞治療の投与前後で、その割合が有意に増加または減少した免疫細胞が存在することが判明
- これらの免疫細胞の変動の意義を明らかにするため、追加の臨床研究を実施中

※先制医療：病気の発生を未然に防ぐことを目的に、様々な背景因子等による予測・診断を踏まえ、症状や障害が起こる以前の段階から実施する医療

2. 免疫チェックポイント阻害剤（ICI）不応例に対する免疫細胞治療（αβT細胞療法）の忍容性・有効性

- 現在、臨床研究を実施中
- 瀬田クリニックが本臨床研究の中間解析結果を日本バイオ治療学会にて報告
(2024/12)

■ 背景

- ・ 抗がん剤やICIの不応例に対する有効な治療法はない
- ・ ICI不応で標準治療終了後もICIは長期間血中に維持されるため、免疫細胞治療が有効である可能性がある（ICI無効となった進行腎盂がんで寛解した症例を経験）

■ 結果及び考察

- ・ 免疫細胞治療による特記すべき免疫関連有害事象を認めず、安全に治療実施
- ・ 2024年11月時点で登録された11例において、4例でがんの進行（PD）を認めたが、3例ではがんの進行が認められず安定（SD）
- ・ 治療開始時のICIの血中濃度は、ICI濃度を測定できた8例中6例において20 μ g/mL以上の濃度（1mg/mL投与した場合のCmax）を維持しており、併用療法と同様の効果を期待
- ・ 治療後、CD8陽性細胞（がん細胞を排除する細胞）が有意に増加
- ・ SD症例において、MUSCAT-Assayでは、腫瘍関連抗原に対する自己抗体価の増加が認められ、免疫細胞治療を行うことにより免疫応答増強の可能性を示唆

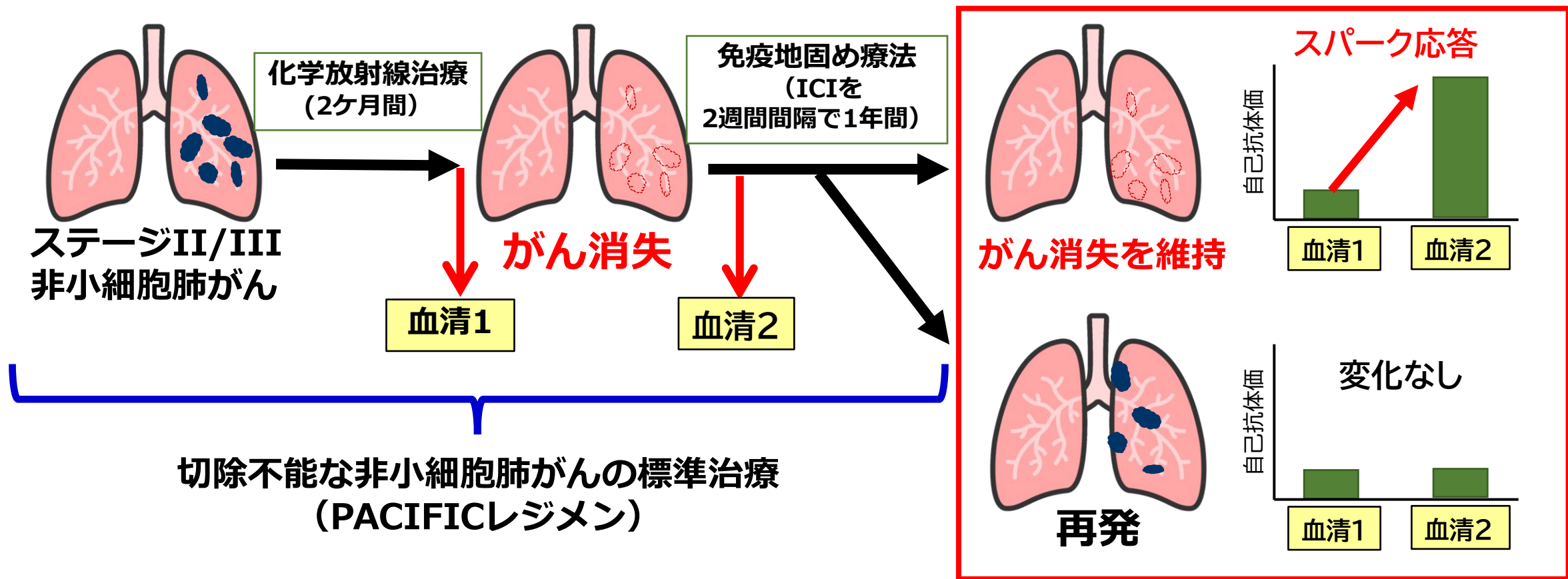
MUSCAT-Assay※ 高感度抗体検出技術（岡山大学との共同研究）

技術特性

- ・ 微量の血液から、治療の効果予測等に役立つ自己抗体を高感度で効率的に定量できる技術
- ・ ICI療法の効果予測/判定のための診断薬やがんリスク検査への応用の可能性

- 第22回日本免疫治療学会にて、岡山大学 二見教授がICI療法の効果予測の可能性について発表
- ICI療法の効果予測やがんリスク検査への応用について、診断薬会社と共同研究契約を締結

※Multiple S-cationized antigen beads array assay



ICI（抗PD-L1抗体：Durvalumad）の初回投与前の血清1、及び初回投与2週間後の血清2に含まれる自己抗体群をMUSCAT-Assayで評価したところ、予後が良好な症例（がん消失を維持した症例）では自己抗体がスパーク応答（抗体価が大幅に上昇）を示したことを確認

⇒ MUSCAT-Assayにより、ICIの治療効果が予測できる可能性を示唆

(単位：百万円)	2024年9月期 通期実績	2025年9月期 業績予想	増減額	対前年同期比
売上高	768	930	161	121.0
細胞加工業	768	930	161	121.0
再生医療等製品事業	0	0	0	
売上総利益	112	156	43	138.6
売上総利益率 %	14.7	16.8	-	-
販売管理費	1,497	1,647	150	110.0
営業損失（△）	△ 1,384	△ 1,491	△106	-
細胞加工業	△ 373	△ 438	△ 65	-
再生医療等製品事業	△ 434	△ 472	△ 38	-
全社経費	△ 576	△ 579	△ 3	-
経常損失（△）	△ 1,261	△ 1,485	△223	-
当期純損失（△）	△ 1,276	△ 1,489	△212	-

この資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。

当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われますようお願いいたします。

この資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち歴史的事実でないものは、将来の事業に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営陣の現時点における判断に基づいており、顕在化・潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、これらの見通しに全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りやデータのダウンロードなどによって生じた障害などに関し、事由の如何を問わず、一切責任を負うものではないことを予めご承知おき下さい。

Appendix

用語集

事業関連用語		説明
1	細胞加工業/ 特定細胞加工物製造業	細胞加工業の3つのビジネス領域の1つである特定細胞加工物製造業は、医療機関で採取された患者様の細胞から、医療機関の委託に基づき、再生・細胞医療で用いる治療用の細胞(特定細胞加工物)を製造し、製造件数に応じて製造委託料を受領する事業。
2	細胞加工業/ CDMO事業	細胞加工業の3つのビジネス領域の1つであるCDMO (Contract Development and Manufacturing Organization) 事業は、再生医療等製品の治験製品および承認取得後の製品の製造受託をはじめ、実用化に係る各種業務を受託し、各種役務に応じた委託料を受領する事業。
3	細胞加工業/ バリューチェーン事業	細胞加工業の3つのビジネス領域の1つであるバリューチェーン事業は、細胞加工関連プロセスから派生する技術・ノウハウなどを提供し、対価を受領する事業。
4	バリューチェーン事業/ 施設運営管理	バリューチェーン事業において提供するサービスの一つであり、既設の細胞培養加工施設の運営管理業務などを受託するサービス。
5	バリューチェーン事業/ 再生医療関連サービス	バリューチェーン事業において提供するサービスの一つであり、再生・細胞医療に関連する各種業務を受託するサービス。
6	再生医療等製品事業	再生医療等製品事業は、再生医療等製品の研究開発、製品開発を行う事業。製薬企業へライセンスアウトを行った場合、開発ステージに応じた対価を受領する。また、ライセンスアウトしたパイプラインが製造販売承認を取得した場合、売上高に応じたロイヤルティを受領する。

細胞・技術・医療関連用語		説明（修正案）
1	α -GalCer	α -GalCer： α -ガラクトシルセラミドは、スフィンゴ糖脂質の一種。体内では樹状細胞などの抗原提示細胞に取り込まれ、特定の抗原提示分子CD1dを介して、NKT細胞を活性化する。
2	NKT細胞活性化樹状細胞	NKT細胞（ナチュラルキラーT細胞：T細胞とnatural Killer (NK) 細胞の両方の特徴を持つリンパ球。Tリンパ球、Bリンパ球、NK細胞に次ぐ第4のリンパ球とされている）は、直接的にがんを殺傷するほか、サイトカインなどを産生して免疫応答を高めることが知られている。当社が特許権を保有する樹状細胞ワクチン加工技術を活用し、樹状細胞に α -GalCerを添加することで、体内のNKT細胞を効率よく活性化することが確認できている。
3	α -GalCer/DC	α -GalCerをパルスしたDC（自己末梢血単核球由来樹状細胞）とは、末梢血単核球は、末梢血から分離されたリンパ球（T細胞、B細胞、NK細胞等）や単球などを含む単一の丸い核を有する血液細胞で、治療を受ける患者様本人の末梢血単核球から樹状細胞を誘導し α -GalCerを添加することによって作製した、 α -GalCerを細胞表面の抗原提示分子CD1dに提示する樹状細胞。
4	γ δ T（ガンマ・デルタT）細胞	γ δ T（ガンマ・デルタT）細胞は、近年、世界で注目されている免疫細胞の一種で、体内の様々な免疫機構に関与していると報告されている。 γ δ T細胞の中でも、特にV γ 9V γ 2という遺伝子の組み合わせのTCR（T細胞受容体）をもつ γ δ T細胞は、がん細胞に対して強い攻撃能力を有していることが知られており、日本での臨床応用のみならず欧州を中心とした海外での研究開発も進められている。当社の開発した γ δ T細胞細胞培養加工技術は、末梢血中にわずか数%しか含まれていないV γ 9V γ 2T細胞を選択的に活性化し、数千から数万倍に増殖させることができる技術。
5	脂肪由来間葉系幹細胞（ASC）	脂肪由来間葉系幹細胞（ASC）は、移植片対宿主病（GVHD）、脊髄損傷、クローン病に伴う複雑痔瘻の治療製品として臨床使用されており、骨や軟骨に対する疾患、心臓疾患、肝疾患、糖尿病等に対する臨床研究も進められている。様々な疾患に対する間葉系幹細胞治療の期待の高まりを受け、当社においてもASCの細胞加工技術の開発に着手し、その細胞加工技術を確立している。
6	ダイレクトコンバージョン法 （セルアクシア社との共同研究）	骨造成治療法は、近年のゲノムリプログラミング研究の目覚ましい発展により、特定の条件を満たすことで分化能を有する多能性細胞を介することなく、体細胞（線維芽細胞等）から目的の体細胞（骨芽細胞等）に直接転換（ダイレクトコンバージョン）する現象が見いだされ、将来の革新的医療を担う新技術。 セルアクシア株式会社が開発を進める新規技術ダイレクトコンバージョン法は、患者様から容易な方法で採取できる線維芽細胞を原料として、短期間の簡易な製造工程で目的とする体細胞（骨芽細胞など）を作り出すことができる技術を応用することで治療に有用な様々な体細胞を創製し、画期的な医療技術として実用化が期待されている。

細胞・技術・医療関連用語		説明（修正案）
7	S-DSC®	S-DSC®は、後頭部の頭皮から毛球部毛根鞘（DSC）細胞を採取し、体外で細胞を増やして特定細胞加工物にしたもの。「S-DSC®」を頭皮に投与することにより、毛髪成長が促される可能性を示す結果が得られている。
8	ヒト白血球抗原（HLA）	ヒト白血球抗原（HLA：Human Leukocyte Antigen）は、白血球などの細胞表面上に発現する分子。
9	HSP-105	HSP-105（Heat Shock Protein-105）は、国立がん研究センター先端医療開発センター免疫療法開発分野長中面哲也先生らが、膵がんの患者様のがん細胞と血液を使ってがん抗原を同定する SEREX 法を実施して同定されたがん抗原。HSP-105は、精巣以外の正常組織ではほとんど発現はないが弱く発現しているが、大腸がん、肺がん、膵がん、乳がん、胆道がん、食道がん、咽頭がん、神経膠芽腫、メラノーマなど、胃がんや肝細胞がんを除いたほとんどのがんの細胞で過剰発現している腫瘍特異性が高い抗原。構成HSP-105由来ペプチドは、構成するアミノ酸配列の内、特にがん抗原特異的細胞障害性T細胞（Cytotoxic T Lymphocyte: CTL）が強く反応する部分を指す。このペプチドをワクチンに用いることでCTLを効率的に刺激・増殖させることができる。
10	2-DGリンパ球 （糖鎖修飾改変Tリンパ球）	2-DGリンパ球は、細胞の糖鎖修飾・代謝調節作用を有する2-DG（2-deoxyglucose）を培養液に添加して作製したリンパ球。免疫細胞の分化・増殖・活性化・遊走に細胞内エネルギー代謝制御が重要なことから、2-DGを培養液に添加し培養することで糖鎖が改変され、これまでにない抗腫瘍効果を高めたT細胞を誘導することに成功。種々の免疫細胞治療の基盤技術として、応用可能性に向けて研究開発を推進。
11	CAR-T	CAR-Tは、キメラ抗原受容体（Chimeric Antigen Receptor）導入T細胞。
12	TCR-T	TCR-Tは、T細胞受容体（T Cell Receptor：T細胞の表面に存在する腫瘍抗原由来ペプチドを認識するタンパク）を強制的に発現させるよう遺伝子を導入させたT細胞。
13	先制医療	先制医療は、病気の発生を未然に防ぐことを目的に、様々な背景因子などによる予測・診断を踏まえ、症状や障害が起こる以前の段階から実施する医療。
14	免疫パラメーター	免疫パラメーターは、免疫力に関与する機能や各種細胞数を測定、評価する指標。
15	免疫チェックポイント阻害剤 ICI	免疫チェックポイント阻害剤（ICI：Immune checkpoint inhibitor）は、がん細胞を攻撃するT細胞の活性を抑制するシステム（例えばT細胞表面にあるPD-1タンパク質とがん細胞にあるPD-L1との結合）に対する阻害剤である。PD-1とPD-L1との結合を阻害することで、PD-L1により抑えられていたT細胞の働きを活性し抗腫瘍効果を発揮させる薬剤。
16	MUSCAT-Assay	MUSCAT-Assay（Multiple S-cationized antigen beads array assay）は、当社が岡山大学二見教授らとの共同研究で開発したタンパクの可溶化技術を応用した新規な自己抗体迅速測定抗原検査技術。日本、米国及び欧州等で特許取得済み。